

【旧コドラートAと旧コドラートBの比較】

図1の樹冠投影図を比較すると、本数の少ない旧コドラートAは、木々で重なり合っている場所は少ないのに対し、本数の多い旧コドラートBでは、樹冠が木々で重なっている箇所が多数見られます。特に、B-4、5、6のあたりは、樹冠が何層にも重なっていることがわかります。表1の周囲長の変化を見ると、旧コドラートA、旧コドラートBともに、3年間で平均値は増加していました。しかし、旧コドラートAと旧コドラートBで、その増加量は異なっていました。旧コドラートAでは、5.1 cm増加したのに対し、旧コドラートBの増加量は4.5 cmでした。このように、間伐を進めている旧コドラートAの方が、間伐が進んでいない旧コドラートBよりも、最近の生長がいいことがわかります。調査対象地のカブトムシの森A地区は、大径木を育てていく計画なので、よりいっそう間伐する必要があるのではないかと考えられます。

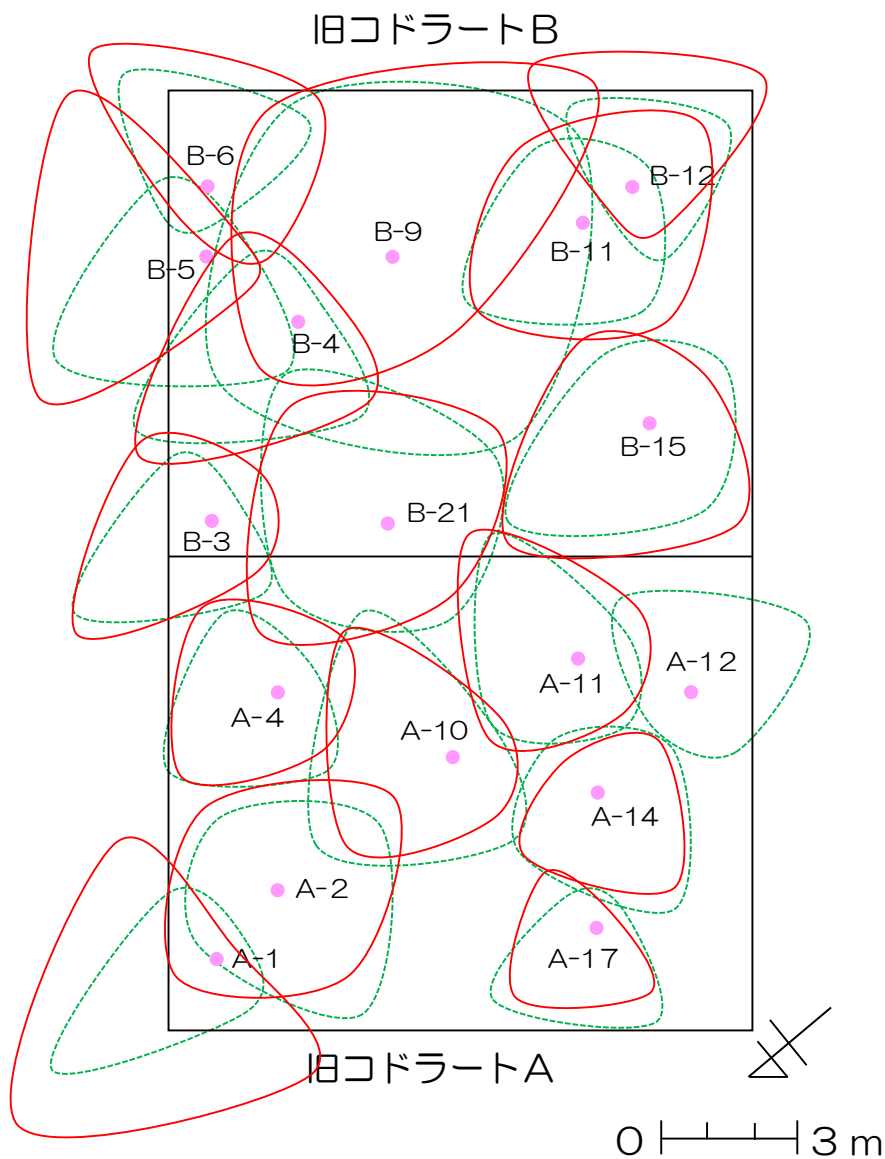


図1 樹冠投影図（点線は昨年の計測結果、実線は今年の計測結果）